

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101397
法人名	有限会社 ナナカマド
事業所名	グループホームななかまど
所在地	青森県青森市第二問屋町1丁目7-14
自己評価作成日	令和6年9月6日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/02/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jisvosvoCd=0270101397-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和6年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に住むひとりとして、役割を持ち、安心して生活できる家を目指す」の理念を持ち、入居様一人ひとりの居室を「家」、食堂を「公共の場」と考え、安心して生活できる環境作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者が自宅にいた時と同じように、自分らしく、安心して穏やかに暮らしていけるよう、日々の支援に取り組んでいる。 また、ホームでは常に、利用者の現状に合わせた支援方法を職員全員で考え、実践に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に住むひとりとして、役割を持ち安心して生活できる家を目指す」という理念を持ち、支援している。理念は事務所のホワイトボードに貼っており、職員は理解している。	地域と関わりながら安心して生活ができる家を目指し、日々のサービス提供に努めている。職員は常に理念を念頭に置き、意識しながら、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民との交流の機会を作るように取り組んでいたものの、交流はできていない。	日頃から、近くの公園や商店に出かけている。また、町内会に加入している他、雪かきの際も近隣住民と一緒に行う等、積極的に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民には交流の中で理解していただくように働きかけている。今後は、運営推進会議を利用して働きかけていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者や交流のあるグループホームからアドバイスをいただき、計画したものの、運営推進会議は2回のみ実施している。	対面や書面等、感染状況に応じて実施方法を変えながら、運営推進会議を開催している。また、会議ではメンバーから意見をいただくと共に、協力体制の構築やサービス向上の機会となるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務の中での質問や相談の際は電話をする等して、指導をいただいている。	業務継続計画書の作成時等、行政には随時相談し、アドバイスをいただきながら、良好な関係を構築できるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関等の施錠をしており、身体拘束は行わない姿勢でケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化に向けての基本方針を確認している。また、施設内研修を通して、身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束は行わない方針であることを、契約書や重要事項説明書に明記している。また、身体拘束適正委員会を設置したり、マニュアルも整備し、職員は研修等で、身体拘束の弊害や内容について理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から職員同士で話し合っている他、事務所でいつでも確認できるようにしている。また、ホーム内研修を通して、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいらっしゃるため、普段から学ぶ機会を持ち、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、入院時や事故があった場合の対応や、看取りに関する説明をして、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望は、関わりの中で察するように心がけている。御家族様の面会時や電話連絡時に意見をいただき、対応している。申し送りや連絡ノートを利用し、職員全員が理解している。	面会時には家族が何でも気軽に話ができる雰囲気を作ったり、玄関に外部の相談苦情窓口を掲示している。意見や要望等は職員全員でその都度話し合い、運営等に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りを利用し、職員同士で意見交換を行うことができるよう、環境作りを行っている。	管理者は職員が自ら気づき、皆で話し合い、協力していく「和」を大切に考えている。管理者と職員は気軽に何でも話せる関係を構築しており、出された意見はホームの運営やサービス向上に向けて検討し、反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりの努力や実績を把握している。また、職員の意見をできる範囲で反映させ、より良い職場環境を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施を継続している。施設外研修については、地域包括支援センター開催の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム等と電話での意見交換は行っている。今後も交流を続けていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で、入居者様の生活歴を把握し、御家族様より普段の様子を聞くことで、本人との良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際、不安な事や困っている事を受け止め、支援していくことを伝え、継続していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、利用されていたサービス関係機関からの情報で状態を把握し、御家族様が望む入居者様の安心した暮らしを支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を知ることで、コミュニケーションを取り、良い関係性を作れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時等に、入居者様の施設での様子を報告し、御家族様が不安にならないよう、支援している事を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が少し落ち着いてきたので、施設内で面会をしていただいている。施設での様子も報告している。また、電話で話ができる方は対応している。	入居時のアセスメントにて、利用者の馴染みの関わりを把握しており、電話のやり取りをお手伝いする等、これまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を理解し、その都度、トラブルにならないように職員が一緒に関わり、食堂で交流できる空間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際、御家族様の今後の不安があった場合、いつでも相談にのることを伝え、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向が伝えられない方には、生活歴や御家族様からの情報を基に、関わりを持ち、本人に寄り添えるように努めている。	日常生活の関わりの中で、利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、家族や関係者からも情報収集をしている。また、意思疎通が困難な方は、表情や行動を観察し、全職員で話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの情報を通して、生活環境や馴染みの暮らし方に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の生活の過ごし方を観察している他、体調の変化の観察も記録を取り、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、入居者様が意見や希望が伝えられないこともあり、普段の生活の中でコミュニケーションを取ったり、観察し、職員間で共有している。また、状態に変化があった時は、その都度見直しをしている。	介護計画は利用者の意見や希望を反映させた、個別で具体的な計画となっている。利用者の状態や意向に変化があった際はその都度見直し、全職員で話し合い、現状に合った介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンス等を通して、職員の気づきや工夫を実践し、共有している。また、問題があった時には介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の状況、ニーズに対応し、可能な範囲で対応するように検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の状況が続いたことで、地域との交流ができなかったが、近くの公園に散歩に行き、地域との交流ができるようにしたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や御家族様の希望する医療機関を受診している。通院時、御家族様が送迎できる時は依頼している。	入居後もかかりつけの医療機関を受診できるよう、支援を行っている。また、眼科等の専門医への受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時や訪問看護来所時に状態を共有し、相談や電話連絡等を行い、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者や御家族様と連絡を取り合い、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできる範囲を検討し、本人や御家族様の意向に沿えるように取り組んでいく。	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を説明している。利用者の健康観察や体調変化時の対応について、主治医や訪問看護と連携を図り、できる限り、利用者や家族の希望に沿った対応ができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡方法を明確にし、速やかに対応できるよう、職員同士で共有し、主治医からの指導もいただき、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練及び研修の実施、BCP計画の見直しを行っていく。	自然災害発生時における業務継続計画、感染症発生時における業務継続計画を作成している。8月に自然災害発生時の訓練を開催予定であったが、感染症発生のため実施できず、10月に訓練を行うこととしている。また、夜間想定火災消防訓練は業者立ち合いのもと、定期的に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言動を否定しない言葉がけに努めている。個性を大切にし、その人らしい暮らしができるように努めている。	利用者への声掛けや対応について、気になる事は職員同士で注意し合ったり、確認や改善に向けた話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の好きな事を把握し、自己決定できるような場面作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先しないよう、入居者様のペースに合わせた関わりや、本人ができる事は毎日の役割としていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪、ヘアカラー、衣類の購入は、入居者様に合う物を選んで対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手な物に配慮し、味付けを工夫したり、食べやすい大きさにする等、工夫している。後片付けは手伝っていたいいる。	利用者は可能な範囲で、食事の準備やテーブル拭き、配膳等を職員と一緒にやっている。職員は、和やかな食事時間となるように雰囲気作りに努め、さりげない介助や声掛け、食器の位置換え等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた量で提供し、食事量が少ない方については主治医に相談し、栄養を補う物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自らできない入居者様には、職員が歯科衛生士の指導を受けて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別で対応している。夜間はリハビリパンツやパット使用の方でも、日中布パンツで対応している。	排泄状況を記録してパターンを把握することで、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、職員は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を考えたり、乳製品の摂取等で対応している。また、レクリエーションでラジオ体操をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日とし、対応している。1対1で対応し、同性介護を希望される方は同性で対応し、身体状況によっては二人で介助を行っている。	ホームでは週4回の入浴日を設け、利用者一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮しながら、個々に合わせた支援に努めている。また、入浴を拒否する利用者についても、週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの環境を考え、ベッドの位置や高さ、布団での生活をされた方には布団で対応し、安心して眠れるように対応している。枕も本人が使用した物で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬は、内容がわかるようにファイルで保管し、職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好きな事を把握して、役割を持っていただくように努めている。歌や塗り絵、体操等を行い、テレビを見ながら談話も楽しむ時間になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩いて行ける近所に桜を見に出かけたり、ホームの中庭で言葉をかけて過ごしていただいたり、近くの公園に散歩に出かけている。	ホーム周辺を散歩したり、買い物に出かける等、利用者の楽しみや気分転換となるように支援している。また、利用者の希望をできる限り叶えられるよう、家族にも協力を呼びかけながら外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身でのお金の管理が困難なため、預り金にて事務所に管理して、必要な物がある時は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望がある時は対応している。御家族様からの電話は、本人の居室にて話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂兼居間には季節に合わせた物を飾っている。外からの日差しが強い時は、ブラインドで調節している。	ホーム内の温度や湿度を定期的にチェックし、快適な空調となるように管理している。また、共有部分や廊下には、行事の写真や季節感のある飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビを見て楽しまれてる方もいるが、コーヒーやおやつの時間を利用して、全員で過ごしていただいている。気の合う人達と過ごせるよう、テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来てもらうように働きかけている。居心地良く過ごせる居室作りに努めている。	入居時に馴染みの物を持ち込む必要性について説明しており、以前から愛用していた物の持ち込みが行われている。職員は、生活しやすい居室となるよう、利用者と一緒に居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の目印を工夫したり、歯ブラシ等にはそれぞれ名前を付けて対応している。居室の入口にも名前を付けて、わかるように対応している。		